

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・来客数の動向でみると、前年の8月は0.2%ではあるが、2011年度に入って初めて前年比が前年を上回る好調な月であった。それを今年の8月は、26日時点ですでに前年を約9%上回っている。
(北海道)	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地における夏の最大イベントの期間中は、天候も良く、前年と比べて4万人以上多い人出があった。また、道内及び本州からもこの期間にあわせ、「十勝の食」を味わおうと訪れた客も多く、飲食関係のほか、交通関連及び温泉を含めた観光関連等では前年よりも売上のアップがみられた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・当店は観光土産店だが、前年に比べて8月の売上は10～20%伸びている。地元からの来客は減っているが、観光客の来客が増えているため、売上が伸びている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を超えて、販売額も増加している。特にお盆商戦の動きが顕著で、その後の残暑も好調要因となっている。衣料の夏物処分も順調で、食品も堅調である。住宅余暇部門は、家電関連こそ依然として悪いが、寝具を中心に伸ばしている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年の宿泊数は前年比110%と増客している。首都圏からの客が猛暑を避けて当地に来ているほか、航空機の東京便の機材が大型のものに変更になり、前年比113%となっていることも要因の1つである。
		観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・8月は大型の大会やイベントが開催され活況であった。Webを中心とした国内個人旅行、中国本土からのチャーター便による海外旅行ともに好調である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・東京からの来道客は、女満別～東京便の座席供給量を前年比150%に増加したため、前年比135%と伸びている。ただし、当地からの旅行需要はほぼ前年並みで推移しており、相変わらず夏場の旅行需要が伸びてこない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・8月に入ってお盆で帰省してくる人や観光客が多く、3か月前に比べると、売上では約117%と伸びているため、やや良くなっている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・客の節約疲れの反動なのか、特に景気に悪影響を及ぼすようなニュースが少ないからなのか、理由がはっきりとはしないが、消費の足かせになるものがないことから、消費に対する抵抗感がなく、必要な物にはお金を使う。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光も繁忙期に入り、来場者は3か月前と比較して167%と増加したものの、東日本大震災前の同時期と比較すると95.4%とやや減少している。傾向としては、東南アジアからの来場者が戻りつつある。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・計画中の分譲マンションに対する問い合わせが通常よりも多い。また、マンションの在庫があれば売ってほしいと問い合わせしてくる客も多い。
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・今年は猛暑の影響もあり、夏物商材の動きが良い。一方で、秋物商材にはなかなか手が出ていない。また、客との会話のなかで、景気の先行きを不安視する声が多い。
		商店街（代表者）	単価の動き	・気温の高い日が続いており、夏物商材がいまだに動いているものの、底値の価格となっている。また、秋物商材の稼働が遅れているため、客単価はかなり下がっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今のところ、客の動きにそれほど変化がなく、新しい変化があるような様子もない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前月に中国語圏の客が増加したが、尖閣諸島等の報道のせいか、今月は減少している。取扱商品が昆布ということもあり、日本人観光客が増えないと売上につながらない面がある。東日本大震災のあった前年よりは良いが、3～4年前と比べると20%程度の売上の落ち込みがある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・年間のなかでも7～8月は飲料水関係を中心に売上を伸ばすが、今年は非常に厳しい状況となっている。

百貨店（売場主任）	お客様の様子	8月25日時点の全館売上が前年比97%、買上客数が前年比97.8%、客単価が前年比99.2%となっており、4月以降、売上の前年割れが続いている。買上客数も前年割れの状態が続いている。客単価も6月こそ前年を上回ったものの、7～8月と前年割れとなっている。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数が減少傾向に変わりつつあり、買上客数も減少傾向が続いている。また、月末の残暑で顧客の購買意欲が極端に下がった印象がある。
百貨店（役員）	お客様の様子	・8月後半に連続して真夏日を記録するなど、観測史上初の暑さで秋物商材の立ち上がりが見込めない状態にある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量は3か月前とほぼ同じだが、前年比でみると95%である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量の動きが多少良くなってきているが、まだ前年よりは少ない。
スーパー（役員）	来客数の動き	・前年との比較において、来客数が前年比で1～2%の低下、客単価が前年比で1～2%の上昇で推移しており、この数か月は、何とか前年並みの売上を確保できている状況であるが、各業態とも、月を追うごとに来客数の微減傾向が強まっている。客の動員を図るべくチラシの回数を増やししたりしているが、売価競争が激化するなど、非常に厳しい状況になってきている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・8月前半からお盆にかけては前年ほど気温が上がらず、売上が減少したが、20日以降は気温が上昇したことから、一気に回復した。客の来店動機が発生すれば、消費マインドが向上している。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・様々な災害等があるため、景気の回復が遅れている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・お祭り、盆踊りとイベントでは街に人があふれるものの、平日は消費者がまばらの状態である。店頭販売の夏物衣料は単価が下がっており、ホテルでの展示会期間中は、気温が上昇したことで前年よりも売上を落とすとした。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・節電ということで冷蔵庫、エアコンなどがよく売れた。スマートフォンや周辺パーツなども動いた。しかし、売上金額は前年並みまでは届いていない。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・今年の3月以降、前年のアナログ放送終了の反動が大きく影響している。今月も依然として影響を受けており、全体としてはほぼ横ばいの状況である。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新規の飛び込み客がめっきりと減り、受注が伸び悩んでいる。受注状況を見ると、最近モデルチェンジした車種が1番だが、他の車種の落ち込みから、全体ではプラスとはなっていない。
自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・前月、前々月ともに新車販売の伸びがプラスに影響している。来月以降は新車特需も終わり、流れが変わりそうである。
その他専門店 [医薬品]（経営者）	お客様の様子	・景品進呈イベントよりも、値引きによるサービスの方が集客が多くなっている。
その他専門店 [造花]（店長）	単価の動き	・売上推移が横ばいである。
高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・観光シーズンで一番の売上となる時期であるが、前年は東日本大震災の影響で良くなかったが、今年も期待したほど良くなっていない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年にない残暑のなか、真夏日が続いているが、夏休みを過ぎてからも、平日、週末とも観光客の入込が良い。来客数は前年比で5%の増加である。当地域のイベントがたくさん行われていることも寄与している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・夏のキャンペーンが好評で前年の売上を超えた。8月中旬まで気温が上がらなかったため、他店では飲物などの売上が伸びなかったようだ。当店は予約客が多いため、あまり影響がなかった。一方、下旬からの暑さにより、この時期としては異例のビール特需となっている。オリンピック期間中は、メダル獲得数に反比例して、予約が少なくなった。

	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・引き続き本州方面からのツアー客数が回復していない。さらに、前年は堅調だった道内客も節電の影響や夏のボーナス減少などの影響により減少しており、3か月前と比較して景気の悪さは変わっていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月は雨の日が少なかったせい、タクシーの売上は前年よりもマイナスである。前年は東日本大震災の影響で前々年を大きく下回ったが、その前年よりかなり悪くなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前月、前々月の状況からは、夏場に向かって受注量が上向きになるという見方をしていたが、今月に入って受注そのものが下降気味になっている。先の予測はまだ見通せないが、今はほぼ横ばい状態で推移している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が概ね前年並みである。観光客による利用が減り、ゴルフでの利用が増えている。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・最近は今よりも代りに悪くもないといった感じで固定化しており、マンネリ状態となっている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価も低迷しており、政局も不安定で、客の消費意欲等がわかっていない。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・変動はみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税法案の可決により、将来への負担増への不安とあきらめの様子がうかがえる。高齢者も子どもや孫に少しでもお金を残そうと消費を控えなければという話も聞こえてくる。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今年は夏のセールが遅れてスタートしたため、8月前半のセールの動きは良かったが、下旬の秋物商材の動きが非常に遅くなっている。また、天候が30度近い高温になったため、秋物商材が動かないという面もある。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・東日本大震災の発生や近隣競合店の開店から一巡となり、最低でも前年維持を見込んでいたものの、来客数の前年割れが継続している。店舗の吸引力が弱くなっており、顧客支持が得られていない状況にある。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・記録的な猛暑により、高齢者を中心に近くの店で買物を済ませる方が多くなり、消費が分散している。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・聞き取れる話はどこも前年比低下に関するものが多い。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気温の関係で消費が上がらない。夏日が続き、秋物商材の販売量が減少している。また、電力不安が、電気以外の節約にもつながっている。
	乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・毎週土日のイベントの来場者数も、新型車投入にもかかわらず増えていない。気になる他社も同じ状況である。また、即決の客が少なくなっており、商談が長引く傾向が強くなっている。
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・原油の値上げ及び節電により、客の動きが鈍くなっている。業界によっては、電力会社の節電要請よりも高い割合を設定している業界もあり、営業時間等にも影響が出ている。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期にもかかわらず、ロンドンオリンピックの影響もあってか、8月の輸送量は前年より減少傾向にある。特に国内旅行が鈍化している。
悪くなっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・連日の暑さの影響で秋物商材が全く動いていない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・人出がない。
企業動向関連	良く なっている	-	-
(北海道)	やや良く なっている	食料品製造業（団体役員）	それ以外 ・例年以上の暑さが続くなか、清涼飲料や調理済み食品の販売が増加している反面、中元商戦の落ち込みがみられる。また、夏に集中したお祭りやイベントの開催により、観光客の増加や地元市民の参加が多くみられ、土産品や食品の購買力が上向いている。一方、企業間での業況格差の拡大がみられ、雇用に対する状況も大きな違いが出ている。
	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建設業不況に基づく廃転業や東北復興の本格化にとともに労働者不足により、建設関連の労務単価が上昇傾向にある。

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙工場で新たな生産設備が8月22日稼働した。新聞用紙専抄マシンでのクラフト紙生産は世界初のことである。クラフト紙の用途は、食品パッケージ、外装紙、茶封筒、肥料、飼料、セメント、米を詰める重袋など幅広く使われ、年間52000トンの生産を見込んでいる。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・国内、国外からの観光客は東日本大震災前の水準に回復した。設備投資は、自動車部品メーカーの能力増強、医療福祉施設の新増設、メガソーラーの建設などで底堅い。建設関連では復興需要などから人手不足感がある。水準は低い景気は良くなっている。	
	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注商品の内容をみても、設備投資をする客が増えている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・農業関連を中心に受注が好調である。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・取引相手の鉄骨加工業社の仕事が多く、消耗資材の販売量は順調に推移している。板金加工業者や製缶加工業者は変化が少ないが、全体的にみるとやや良くなっている。	
変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注状況が地域によりまちまちである。大きな市況の変化はみられず、低位ながら安定している。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・例年8月は、お盆休みの関係から稼働日が少なく、取扱量も減少するが、今年は前年の8月実績や前月の7月と比較しても増加している。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引については相変わらず低調に推移しているが、建物の建築等については増加傾向にある。	
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税が決定したが、増税前の駆け込み需要はみられない。新築マンションも来年以降の販売となるため、不動産の取引状況には大きな変化がみられず、景気も現状維持の状態では変化はない。	
	司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の新築が相変わらず少ない。	
やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・外注がどんどん返されている。新たな仕事が激減している。	
悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子		
雇用 関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が3か月前に比べて1割ほど増えている。求人の内訳もパート職は継続して増加傾向だが、正社員の求人が増えている。夏のキャンペーンなどによる季節的な要因も考えられるが、ここ3か月間は増加が顕著である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・基幹産業である農業の収穫期とあいまって人手不足状況が続く、売手市場となっていることから、求人数が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年比は全体では108%とやや落ち着いてきたが、観光客の入込によってホテルや飲食店、娯楽業にはますます活況が出てきた。新店オープンによる求人も増えてきており、春先まで元気がなかった繁華街にも少しずつにぎわいが戻ってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・業種を問わず、求人ニーズが高くなってきている。観光関連の東日本大震災からの回復傾向のほか、これまで少ない人数で我慢をしていた会社、店舗が募集を出すような動きがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は13.1%増加し、30か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も16.2%増加し、30か月連続で前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・雇用形態を問わず、賃金が現状維持以下となるものが多くみられる。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・各業種とも前年を上回る求人数であり、好況を維持している。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・7月の管内の有効求人倍率は0.52倍と前年を0.09ポイント上回っている。建設業の新規求人が前年を大きく上回るなどの動きが一部にみられるが、依然として高い水準とはいえない。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・夏場の観光客の入込数の増加もあり、宿泊業、飲食サービス業の新規求人数が前年より増加しているが、その他の業界において特に目立った動きはなかった。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年比で13.7%の増加となった。新規求職者数は前年比で5.4%の減少となった。月間有効求人倍率は0.67倍となり、前年の0.50倍を0.17ポイント上回った。一方、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は42.5%であり、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少ないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・多くの業種で前年からの求人数の伸びにブレーキがかかっている。
悪くなっている	-	-	-